

因ニ云フ入峰修行ハ修驗唯一ノ法式ニシテ本山當山ノ二派ニ分レ本山派ハ聖護院門主ヲ貫主トナシ一ニ熊野派ヲ稱セリ聖護院ハ熊野三山檢校三井長吏ヲ兼ネ役行者ノ正流ト號シ入峰ノ次第ハ祖師ガ大和ノ葛城山ヨリ紀伊ノ熊野ヲ經吉野ノ大峰山オホミネサン上ノ靈場ヲ開キタル遺跡ニ隨ヒ即チ葛城熊野ヲ經由シ大峰ニ入ルヲ例法トナス故ニ之レヲ順峰修行ト云フ逆峰之レニ反ス事鳥嶺岡衆徒ハ往時此派ニ屬セシ修驗ナレバ當山ノ下ニ詳カナリ此等ノ關係ヨリシテ創祀セラレタルモノナルヘキモ記錄ノ徵スヘキナシ

祭日 陰曆七月十日 當夜村民社頭ニ於テ檜山ト稱スル散樂數番ヲ演ス其曲「か

け謠」「御かくら」「番樂」「翁かけうた」「同かたり」「同舞謠」「三番叟」「かけうたひ」

「同舞謠」「景政」「蕨打かけうた」「同かたり」「ちを」「曾我」「鳥舞」「景清」「赤舞」

「橋引謠」「大江山かたり」「しのぶ」「高時」「四人舞」「關破」「梶原」「狸々」等大凡二

十四関アリ左ニ其二二三ヲ掲ク

かけ謠 朝日さす夕日か、やく大寺ニさくら色なる兒ハ八人

御かくら みかくらやく、いつ立ちめし神の御かくらや實ニおもしろの神の御かく

らや

番樂 ばんがく太郎やく、岩屋にこもりてばんがくふむこそめてたさよ

舊社僧 別當坊寶前坊ノ二口アリ共ニ鳥海山順峯ノ衆徒ナレトモ主トシテ當社

ニ勤仕シ且鳥海山神領ノ内杉澤分高四拾壹石三斗八升四合ハ此二口ニテ配當シ
タリキ 事鳥海山ノ下ニ詳カナリ

長 橋 上下アリ明曆二年ノ現高上長橋ハ三百五十九石六斗九升八夕ニシテ下

長橋ハ貳百四拾貳石壹斗貳升貳合ナリ 同年檢毛帳 後チ上ハ三百六拾九石貳斗壹升八合

壹夕 免五ツ七分五厘 下ハ貳百七石貳升二合六夕 免五ツ八タリ

小 松 上下アリ上小松ニいさご腰卷、長田ノ小字アリ明曆二年ノ現高上小

松ハ三百三拾壹石八斗四升八合五夕ニシテ下小松ハ三百四拾五石九升壹合三夕

ナリ 同年檢毛帳 後チ上ハ三百八拾壹石八斗三升七合五夕 免五ツ七分五厘 下ハ三百五十四石四斗五

升八合 免五ツ七分五厘 トナル

平 津 山根、境ノ小字アリ明曆二年ノ現高二百三拾貳石九斗六升貳合タリシ

チ 同年檢毛帳 後チ二百四拾四石五斗六升九合貳夕 免五ツ分 トナル舊大組頭齋藤氏コ、ニ住

ス家ニ古文書數通ヲ傳フ 但關係事項ノ下ニ掲載シタレハコ、ニ省略セリ

帝立寺 本ト帝龍ニ作ル 風土記曹洞宗松嶺總光寺末ニシテ阿彌陀如來ヲ本尊トナス

寺傳ニ嘉吉年中帝立太子當所ニ遁レ來リ之レヲ草創シ給ヘリト云フモ明徴ナシ

○筆の余ニ引ケル奠都山帝立寺由來記ニ帝立太子殿舎之跡也平津楯ハ執權殿冢彈正カ居城下サレバ太子ノ殿舎ナリシヲ薨去ノ後チ之レヲ佛刹トナセルモノ、如シ薨去ノ年月詳カナラズ寺僧ハ五日ヲ以テ忌日トナシ靈牌ニ帝龍院都室帝立太子ト記シ之レヲ御所様ノ位牌ト稱セリ又太子ノ從臣ニ佐々木新左衛門殿冢彈正アリテ殿冢ハ平津館主ノ祖ナリト云ヒ其靈牌亦當寺ニアリテ寶覺院殿金山淨蓮大居士佐々木ハ光林院天室冷蓮大居士ト勒セリ

太子ノ御墓ト稱スルモノ大楯地方田畝ノ中ニアリテ東西五間南北四間石ニテ築キ高三尺許安政ノ震災ニ毀損セシ五輪塔ノ斷片處々ニ散在ス墓前ニ壹尺三寸許ノ石佛三體ヲ置キ左右ニ古木二株アリ佐々木ノ墓ハ之レヨリ西北一丁余ヲ隔テ田畝ノ中ニアリト筆の余ニ

土俗云彼太子ノ陵ハ田ノ中ニ方一丈斗土饅頭也里人漫ニ入レハ必崇有リ帝立寺中興ノ祖大空禪師思フ旨有トテ或時此處ニ入り草ヲ薙リ土ヲ穿テ證ヲ求ムルニ果シテ地中ニ五輪ノ頭其外敷石四五枚ヲ得タリ猶殘リヲ求ムルニ或ハ溝中ニ火風ヲ得タリ又ハ田ノ中ニ空土ヲ掘得終ニ五輪全ク備ハル左レド文字剝落シテ歲月ヲ知ル能ハス禪師懇ニ法華經ヲ書寫シ是レヲ収メテ再ヒ五輪ヲ立テ柵ヲ廻ラシ別ニ寺中ニ碑ヲ立テ此事ヲ誌セリ

ト云ヘリ此事庄内藩士牧某筆記ノ抄録トシテ大泉雜話ニモ載セラレ而シテ所謂

寺中ノ碑ハ現ニ當境内ニアリテ文左ノ如シ

(表) 大乘妙典法華大般若理趣之塔

(裏) 村老之傳云出羽國庄内飽海郡平都邑都奠山帝立禪寺者古代仙臺領黑石邑正法禪寺之末也漸及衰微七十年來爲松山總光寺末寺當寺開基大且越者帝龍院殿都室帝立太子也墓有田中薨御者五日又領主平都邑殿冢彈正殿法號者法學院殿金山淨蓮大居士卒去者朔日也有墓記之使後人不忘也

寶曆六丙子年三月二十日

之レニ據レハ寶曆六年住僧大空ガ思フ子細アリト稱シ古墳ノ兆域ヲ堀リ水火風土空ノ五輪石ヲ發見シタルニ依リ更ニ法花經文ヲ寫シ之ヲ埋メ再ヒ墓地ニ五輪ヲ立テ其紀念トシテ碑ヲコ、ニ建テタルモノナリ將タ帝立太子ハ其御諱ヲ傳ヘサレバ何帝ノ皇子ナリシヤ殊ニ其事跡ハ唯寺傳及ヒ村老ノ口誦ニ係リ未タ嘗テ確實ナル文書ヲ得サレバ果シテ太子コ、ニ來リ給ヒシヤ否ヲ知ラス

或ハ云フ帝立太子ノ傳説ハ寶曆以前ノ記錄ニ所見ナシ疑ラクハ大法ガ故ラニ寺家ノ由緒ヲ尊ウセントシテ竊ニ古墳ニ作爲ヲ加ヘ之レニ假托シテ太子ノ事ヲ捏造シ併セテ平津館主ヲ其從臣ナリト附會シ終ニ一傳誦トナレルモノナラン寺ニ傳フル太子ノ御像ト稱スルモノヲ見ルニ其服裝及ヒ製作等足利時代ノモノニアラズ且其靈牌ノ漆色書體亦近代ノモノニシテ寶曆比ノ物タル一見自ラ明カニ旁々寺傳ノ覺束

ナキヲ證スルニ足ルヘキモノナリト姑ク記シテ疑ヲ存ス

平津楯

往時殿家彈正ナルモノコトニ住スト奥敗詳カナラズ

帝立寺ノ傳説ニ太子ノ從臣ナリト云フ明徴ナシ 彈

正ガ帝立寺ニ奉納セシ鞍鐙泥障等ハ寺家ノ什寶トシテ之レヲ傳ヘシガ泥障ハ虫食ミ鞍鐙ハ天保中住僧不埒ニテ沽却セシト云フ彈正ノ子孫今野甚左衛門ト稱シ世々平津ニ住シ其宅地ハ即チ楯址ナリ故ニ里人ハ楯之家ト稱ス支族蕃衍十余家トナリ一門ノ墓所ハ一區ニアリテ他姓ヲ交ヘズ中央ニ三尺斗ノ地藏石像ヲ立テ背ニ殿家彈正ト彫レリ家頗ル富ミ享保ノ比迄ハ藩主ニ用金ヲモ差出シ四頭立ノ厩ナドヲ有セシガ漸次零落シ並百姓トナレリト余支族ニ今野喜七ナルモノアリテ十日町組大組頭タリ寛政十二年江地組大庄屋ニ召出サレ文化十三年御組外トナリ鶴岡ニ住シ嘉永中殿家ト改ム

(大庄屋例帳)

今野喜七寛政十二年二月江地組大庄屋被仰付給米廿五表高ニ被成下

候同七月忤衛吉御用見習父子勤被仰付候但今野喜七遊佐郷十日町組大組頭之處勤

功ニ付御取立被成下候

(御郡中大庄屋之記) 今野喜七ハ世々遊佐の大組頭ナリ寛政十二年江地組大庄屋ニ

被召出文化十三年御組外トナレリ近年姓を改め殿家ト名乗る

飽海郡誌

卷之九終

160
10
130

西曆一千九百零九年
十月十日
禮拜一
晴
今日天氣甚佳
風和日麗
人心亦覺爽快
...

